

中央電気倶楽部月報

◎午さん会講演録

『米中対立と最近の国際関係について』

／東京大学 東洋文化研究所 准教授 佐橋 亮 氏

2023
7
Vol.853

中央電気倶楽部月報

令和五年七月一日発行 一般社団法人中央電気倶楽部 〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目二十五番 電話06-6345-1635(代) FAX06-6345-1687



倶楽部からのご案内

午さん会で映画「黒部の太陽」上映決定

今年には黒部ダム竣工六〇周年を迎えます。このことを記念し、当倶楽部の午さん会で、映画「黒部の太陽」を左記日程で上映いたします。ご紹介するまでも無く、この映画は往年の大スター三船敏郎氏、石原裕次郎氏他による感動の大作でございます。

なお、上映は石原裕次郎氏のご希望に沿い、大スクリーンで迫力を感じていただけるよう、五階ホール(約百名程度鑑賞可能)にて行う予定です。他の午さん会と同様、映画のみ鑑賞を希望される会員および同伴の方々も参加いただけます。

このため、会員様はもとより、会員様のご友人様にも多数お誘い合わせの上、奮ってご参加いただきますよう、何卒、よろしくお願いいたします。

開催日	七月二十一日(金) 午さん会
ランチ	十二時〜十二時三十五分頃 三階大食堂
映画 (途中休憩十分間程度)	十二時四十分〜十六時頃 五階大ホール

公開講演会開催のご案内

ロシアによるウクライナ侵攻開始から一年余り経過しました。ロシアとウクライナの関係は、中国と我が国との関係に類似する点があり、決して他所事ではないと言われています。特に、台湾問題をはじめ海洋進出を強める中国に対し、我が国はどのように対応すべきか理解しておく必要があります。

このため、航空自衛官としての豊富な勤務経験があり、わが国の防衛に関して提言されておられるだけでなく、昨年、正論大賞も受賞された織田邦男先生をお迎えし、ご講演をいただきます。

なお、この講演会は会員に限定せず、どなたでも自由に出席できる公開の講演会ですので奮ってご参加下さい。

日時 令和五年八月八日(火)
十三時三十分〜十五時十分
場所 (二社)中央電気倶楽部 五階大ホール
演題 『台湾有事と日本の課題』
講師 元航空自衛隊 空将、
麗澤大学 特別教授 織田 邦男 氏

聴講料 無料
申込方法 倶楽部事務局(三宅 更谷、藤川)へ電話、FAXまたはEメールにて、聴講希望者の所属団体名、役職名、氏名をご連絡下さい。

締切 令和五年七月三十一日(月)
ただし、先着二〇〇名様で締め切ります。
TEL 〇六-六三-四五一六三(代)
FAX 〇六-六三-四五一六八七
Eメール kouenka@chuodenki-club.or.jp

「会員感謝祭」のご案内

昨年ご好評をいただきました会員感謝祭を次の通りご案内いたします。皆様方にゆつたりと音楽をご鑑賞いただき、美味しいお食事をお楽しみいただけます。お誘いあわせの上、是非ご参加ください。

日時 令和五年八月二十五日(金)
十七時半〜二十時
場所 中央電気倶楽部 五階大ホール
出演者 山本純子さん(フルート)
今西彩菜さん(ヴァイオリン)
宮國香菜さん(ピアノ)
参加費 八千円(会員)、二万円(非会員)
定員 六十名(先着順)

※後日請求書をお送り致しますのでお支払い願います。
※お申込みにつきましては、FAX又はEメールにてお願いいたします。(氏名年齢連絡先をご明記ください)なお開催日二日前以降のキャンセルは食事代実費をご負担願います。

お問い合わせは、倶楽部事務局(総務)まで。
TEL 〇六-六三-四五一六三五
FAX 〇六-六三-四五一六八七
Eメール kanshasai@chuodenki-club.or.jp

◎会員感謝祭開催のご案内◎

昨年引続き会員感謝祭を開催いたします。今年はクラシックなどの音楽を鑑賞いただきながら、お食事をお楽しみ頂けます。友人をお誘いあわせの上、是非ご参加下さい。

◆日時 令和五年八月25日(金)17:30〜20:00
◆場所 中央電気倶楽部 5階 大ホール
Q1:18〜19:00 第1楽章
Q2:19:00〜20:00 第2楽章
◆出演者 山本純子さん(フルート)、今西彩菜さん(ヴァイオリン)、宮國香菜さん(ピアノ)

＜山本 純子さん＞ ＜今西 彩菜さん＞ ＜宮國 香菜さん＞
◆定員 60名(先着順)
◆参加費 8,000円(会員)、10,000円(非会員)
◆全会員に感謝状(御着席参加券付)を贈呈させていただきます。
◆申込方法 下記方法にて申込み下さい。なお、開催日以前以降のキャンセルについては、食事代実費をご負担願います。

申込みについては、氏名・年齢・連絡先を明記し、Eメール又はFAXにて毎月1日(金)までにお申込み下さい。
Eメール kanshasai@chuodenki-club.or.jp
FAX 06-6345-6877
※FAXでの申込みは申し込み書の必要項目を記載し、お申込み下さい。お問い合わせは倶楽部事務局 TEL 06-6345-6356(総務)まで。



大ホール綴帳

七月のスケジュール

三十一	月		
三十	日		
二十九	土		
二十八	金	午さん会 講演『AIの急激な進化が変える世界』 待ったなしのAI活用人材育成 関西学院大学 副学長・情報化推進機構長 巳波 弘佳 氏	
二十七	木	評議員会(二一四号室) 理事会(二一三号室) 社交ダンス教室例会(B一〇号室) 十七時	
二十六	水		
二十五	火		
二十四	月		
二十三	日		
二十二	土	将棋部例会(指導なし) ※映画は五階ホール大スクリーンで上映(約三時間)	
二十一	金	午さん会 映画鑑賞『黒部の太陽』(二十頁参照) 主演 三船 敏郎 石原裕次郎 監督 熊井 啓	
二十	木		
十九	水	文化・集会委員会(特別会議室) 社交ダンス教室(B一〇号室) 十七時	
十八	火	図書委員会(特別会議室)	
十七	月	海の日(休館日)	
十六	日		
十五	土	いなづま句会(二一七号室)	
十四	金	テナント会議(二一二号室) 午さん会 講演『(仮) 運輸安全の観点から見た 知床観光船沈没事故 確認された事実と対策』 関西大学 社会安全学部 名誉教授 安部 誠治 氏	
十三	木		
十二	水	社交ダンス教室(B一〇号室) 十七時	
十一	火		
十	月		
九	日		
八	土	囲碁部例会	
七	金	午さん会 講演『(仮) クロアチアの独立戦争経験から見る ロシアのウクライナ侵攻』 日本クロアチア交流協会 理事長 山崎 エレナ 氏	
六	木	写真部審査会(二二三号室) 十五時 ゴルフ部例会(泉南CC) 作家 清水 正博 氏 電社会講演会(二二五号室) 十一時 講演『江戸時代のSDGs』	
五	水	電寿会(三二六号室) 絵画部(B一〇号室) 社交ダンス教室(B一〇号室) 十七時	
四	火		
三	月	青年会例会	
二	日	初・中級向け囲碁教室(二〇五号室) 十時~十二時 囲碁部指導日(北川師範)	
一	土	撞球部例会	

※予定変更の場合は改めて連絡いたします。

目次

7月のスケジュール — 2
8月・9月の予定
絵画 — 4
講演録 — 5~13
倶楽部だより — 14~17
同好会だより — 18~19
倶楽部からのご案内 — 20

創立：大正3年11月
建物(本館)：昭和5年竣工
会員数：1,431名

法人指定会員 1,196名
個人会員 235名
(R5.6月末現在)

電社会講演

◎七月六日(木) 十一時~十二時
講演『江戸時代のSDGs』
作家 清水 正博 氏

八月の午さん会講演(予定)

◎八月四日(金) 休会
◎八月十一日(金) 休館
◎八月十八日(金) ビデオ映画鑑賞会
『樺太一九四五年夏 氷雪の門』(一〇九分)
主演 二木てるみ
◎八月二十五日(金) 休会
会員感謝祭開催
詳細は二十頁参照

公開講演会

◎八月八日(火) 十三時三十分~十五時十分(五階大ホール)
講演『台湾有事と日本の課題』
元航空自衛隊 空将、麗澤大学 特別教授 織田 邦男 氏
詳細は二十頁参照
●夏季休館日 八月十一日(金)・十二日(土)
十三日(日)・十四日(月)
十五日(火)

九月の午さん会講演(予定)

◎九月一日(金) 講演『国家安全を強調する中国の社会統制政策』
『最近の情勢の分析』
東京大学大学院 総合文化研究科
教授 阿古 智子 氏
◎九月八日(金) 講演『(仮)『コロナ禍のリスクコミュニケーション』
グローバルヘルスコミュニケーションズ代表
ヘルスコミュニケーションスペシャリスト
保健学博士 蝦名 玲子 氏
◎九月十五日(金) 講演『台頭するインドとどう向き合うべきか?』
防衛大学校 総合安全保障研究所
教授 伊藤 融 氏
◎九月二十二日(金) 講演『(仮)『インテリジェンスで読み解く米中と経済安保』
評論家、情報史学研究者 江崎 道朗 氏
◎九月二十九日(金) 講演『(仮)『はやぶさ2の成果と今後の拡張ミッションについて』
JAXA宇宙科学研究所 藤本 正樹 氏
副所長

午さん講演会にご出席のおすすめ

毎週金曜日の午さん講演会は、下記の要領で開催いたしておりますので、多数ご出席ください。
出席資格：倶楽部会員およびご同伴の方、会員会社の社員の方
時間：12時~13時40分頃(講演12時40分~13時40分)
場所：3階大食堂
食事代：一人会員2,200円(税込) 非会員2,500円(税込)
予約：不要
着席：自由着席

「世界は真の激動期にある」
今の世界は、大きく変化していません。その特徴のひとつは、これまで欧米に閉じていたパワーが世界的に拡散しており、欧米中心の世界であったのが、どの国も成長するようになってきたことです。そのなかで特に成長しているのが中国であり、次いでインドであったり、東南アジアの諸国であったり、といったよう

に「力の分布」が変化したことが大きな特徴のひとつです。
今の世界の持つ二つの特徴は「不信」、つまり相手を信じられないということことです。この「不信」が今の世界の政治を説明する上で最も重要視すべきものだとは思います。要視すべきものだとわたしは思っています。アメリカと中国はまさしく今、相手に対して徹底的に不信を抱いています。その背景に、アメリカからみれば、中国が追いついてきて

おり、逆に中国にしてみれば、アメリカを追い抜けるかもしれないということがあります。それ以上に深刻なのは、アメリカは中国のやることなすことを、いまひとつ信じていないし、中国もアメリカを信じ切れていないことです。過去五十年、米中関係は今のような姿ではありませんでした。「不信」が今の米中関係の特徴です。この関係は当面は続きま

『米中対立と』

最近の国際関係について』



東京大学
東洋文化研究所
准教授
佐橋 亮 氏

午さん会講演録

佐橋 亮氏 プロフィール

略 歴 1978年 東京都生まれ
イリノイ大学政治学科留学を経て、
2002年 国際基督教大学教養学部卒
07年 東京大学特任助教
09年 東京大学大学院博士課程修了
オーストラリア国立大学博士研究員
10年 神奈川大学法学部准教授、教授
14年 スタンフォード大学
アジア太平洋研究センター客員准教授
19年 現職
7月より東京大学未来ビジョン研究センター
准教授を兼務

専 攻 国際政治学 特に米中関係、東アジアの国際関係、秩序論
受 賞 日本台湾学会賞(2007年)
神奈川大学学術褒賞(2016年)
著 書 『共存の模索 アメリカと「2つの中国」の冷戦史」
(2015年 勁草書房)
『米中対立 アメリカの戦略転換と分断される世界』
(2021年 中央公論新社)
『冷戦後の東アジア秩序』(編著2020年 勁草書房)
『バイデンのアメリカ』(編著2022年 東京大学出版会)



「変わりつつある御堂筋」 個人会員 並木 宏徳 君

作者のひと言

絵画部で中之島に写生に出かけました。大阪の発展をリードしてきたこの界限ですが、御堂筋の入り口とも評される淀屋橋のもとに二台のクレーンが動いていました。土佐堀通りの南、御堂筋をはさんで東と西にツインの超高層ビルが建設されるそうで、大阪で万国博覧会が開催される二〇二五年までの完成を目指しているそうです。その時にはどんな景色が見られるのでしょうか。また写生に來たいですね。

(絵画部員 並木 宏徳)

ロシアと、欧米や日本の間も「不信」に満ちています。先進国側、ウクライナ側に立っている国々、それも国境の近いヨーロッパの国々にしてみればロシアに大きな「不信」があるのは当たり前です。しかし、ロシアがなぜウクライナを侵略したのかという「そもそも」も考えなければなりません。プーチン大統領やその一派側にもそこに根深い「不信」があるのです。七十年以上前、アメリカとソ連の冷戦状態が始まったのは、アメリカを筆頭とする資本主義陣営とソ連を筆頭とする共産主義陣営が、互いのやることを信じられなかったからです。一方では米中関係があり、他方では欧米とロシアの関係がある。両方ともが同時並行で起きているわけです。なんとという時代なのかと思います。

三つめの特徴として、コロナの世界的なパンデミックで人の移動が変わってしまったことが挙げられます。パンデミックがここまで長引いたことにより、観光、留学も、出稼ぎという労働力の移動も、大きな制約を受けるようになりました。

四つめは先進国と途上国の対立です。広島G7は比較的まとまりましたが、G7を超えて世界がまとまらず、米中関係は、ずっと仲が悪かったわけではありません。一九七〇年代からごく最近までは、むしろ仲よかったですといえるくらいです。

中華人民共和国が建国されたのは一九四九年十月一日です。その後、一九五〇年くらいから朝鮮戦争が始まり、米中は戦争をします。朝鮮戦争は南北朝鮮だけではなく、米中両軍が激突した戦いです。そこから二十年が経ち、一九七〇年代、ニクソン大統領の時代にヘンリー・キッシンジャー大統領補佐官が秘密訪中をします。その少し前には、米中でピンポン外交がありました。そうして七一年以降、米中関係が接近していききました。今から五十年前のことです。

あのとき、アメリカが中国と関係を持った理由は、中国を、自らの世界戦略のために欠くことのできないパートナーとみるようになったからです。そして、一九七〇年代、中国に対する「関与政策」として、アメリカは中国の近代化を支援していききました。

アメリカのズビグネフ・ブレジンスキー大統領補佐官と中国の鄧小平主席が北京で会談し、最後にはアメリカと中国の国交正常化交渉を果た

ているのかといえば、全くそんなことはありません。先進国が「法の支配が大事だ」、「他国を侵略してはならない」、「国連憲章をみる」といったところで、そんなことはお構いなしの国は世界中にあります。アメリカ、日本、ヨーロッパが、「途上国」、「第三世界」の言い換えに過ぎない「グローバルサウス」という新しい言葉をつくったのは、その状況に慌てたためです。

これまで申し上げてきた、米中対立、ロシアとウクライナの戦争、コロナパンデミック、先進国と途上国の対立の四つが並行して起きている。これは相当深刻であり、世界は真の激動期にあると思います。

一九八九年十一月九日、ベルリンの壁が崩壊し、翌年に東西ドイツが統一、九一年にソ連が崩壊します。そうして冷戦が終結した三十年前から今までの時代は、世界はどんどんよくなる、米ソ冷戦のように世界を巻き込むくくられないものは終わった、これからはグローバル化だ、自由貿易だ、みんなが明るい希望を持ち続けてきました。

今はもう違います。グローバルゼーションそのものが問い直されているという人もいますし、自由貿易していきまます。アメリカ大統領名代であるブレジンスキー補佐官は鄧小平主席に対し、「近代化し、他国（ソ連）に脅かされない強い中国になってほしい。それがアメリカの利益にもなる。」と繰り返し伝え、晩餐のときにもこのフレーズを何度も繰り返ししました。

ブレジンスキー補佐官の訪中後、アメリカから大統領の最高科学顧問である科学者フランク・プレス氏は多くの科学者たちを引き連れて中国を訪問し、ここから米中科学技術交流が始まりました。このときからアメリカは中国に科学技術の移転を始めたのです。中国の大学、研究機関の成長も強力で支援するため、最先端の実験設備ですらも中国に渡し、そのなかには原子力開発関係のものも含まれていました。それまで中国は自分たちの手で核兵器をつくっていたのですが、民間用とはいえアメリカは核技術まで中国に渡したのです。また、高性能のコンピューターも売り渡しています。

何よりも、中国から何万という留学生を、MIT、カリフォルニア工科大学、スタンフォード、ハーバード、カーネギーメロンといった世界最先端の科学技術を結晶させたよう

はもう死語になったという人すらいます。つまり、今の時代、「国際協調」などというものはどこかへいってしまいました。

冷戦が終わったとき、アメリカは傑出して強かった。ヨーロッパも強く、欧州統合がどんどん進んでいきました。当時、中国と新生ロシアはその下にある存在であり、なおかつ両者は経済発展を切に願ひ、欧米先進国に従っていました。今はこの図式が完全に壊れ、まだそこその力を有しているロシアが世界に大きな迷惑をかけ、成長した中国は世界にこれから挑戦をしていく状況にあります。

（一九七〇年代の米中関係）

アメリカと中国の関係は、グローバルゼーション、世界の形そのものが変わるくらい大きなインパクトを持っていきます。グローバルゼーションの前提にあったものは、中国が経済成長し、中国は世界の工場であるだけでなく世界の市場にもなる、だからみんなで投資ができる、みんなで技術移転もできる、という思い込みでした。それがすっかり怪しいものになりました。

な理工系大学に受け入れられました。それも中国政府の奨学金にアメリカ政府の奨学金も上乘せし、何万人も受け入れ続けました。これは完全なる技術移転であり、科学分野で中国の成長を強力で支えていくという強い姿勢です。同時にこれらは当時の中国が喉から手が出るほど欲していたものでもありました。アメリカは中国をパートナーとみなし続け、その成長、近代化を支え続けたわけです。

また、一九八九年六月四日、第二次天安門事件が起きたとき、アメリカは大統領補佐官を二回、北京へ向かわせました。そして「わたしたちの関係は変わらない。ただ、人権侵害はほどほどにしてくれ。」と伝えました。人権云々はアメリカにとって何の意味も持ちません。重要なのは「わたしたちの関係は変わらない」といい切ったことです。その時点では、アメリカはソ連に対するカードとしての中国を捨てきれなかったのです。

また、一九九〇年〜九一年、ヨーロッパは「中国とは貿易をしない」と激昂していました。そのときもアメリカは貿易を続け、いろいろな関係を取り戻そうとしていました。なぜなら、ソ連が崩壊したあとも国際

政治の様々な場面、すなわち北朝鮮問題、中東問題、世界の経済問題等、いろいろな面で中国は有用なパートナーだとアメリカは考えていたからです。このような米中関係について、今だからこそ「なぜアメリカはあれほど中国を成長させてしまったのか。五十年も敵に塩を送り続けて」という見方もありますが、この四、五十年においては、アメリカの世界戦略にとって十分に意味のあるパートナーシップだったのです。

さらに、アメリカが中国に関わり続け、中国の近代化を支援することに繋がった二つの背景があります。

ひとつは「中国はアメリカに追いつくことはできない」という見方です。八〇年代から九〇年代にかけて、このまま中国の近代化を支援し続けていてもよいのかという議論もされたのですが、「中国は、孫の世代には脅威となるかもしれないが、今の世代の脅威ではない。」「中国経済は成長しても、それはアジアの経済にすぎない。世界経済に冠たることはない。」と考えられました。根拠などなく、これは慢心でした。

もうひとつは「アメリカは中国に三つの期待を抱いていた」ということです。ひとつは「中国の政治は改

リカは習近平氏を悪いリーダーではない、加えて弱いリーダーであると評し、だから欧米と一緒に働けるリーダーであると見立てていたのです。ところが、習近平政権が始まって一年、二年と経つにつれて、その見立てはまったく違っていたことを痛感することになります。習近平政権は「反腐敗闘争」の陰で市民をコントロールする社会統制を急速に進めていきました。さらには経済改革でも国有企業優先方針を強力に固めます。また、習近平政権は一期目から「一帯一路構想」を推し進めたり、アジアのためのアジア人による安全保障の仕組みをつくろうと堂々と主張していきます。「国際貢献への期待」も裏切られました。アメリカは、そんなことをさせようとして中国を育ててきたわけではありません。期待は大きく裏切られ、アメリカが、対中政策を変えなければならぬと気付いたのが二〇一五年前後だったというわけです。ここから米中関係は悪化を始めました。

二〇一五年はバラク・オバマ大統領の最後の二年間にあたります。彼はいろいろなことへの対処を始めます。たとえば中国からのサイバー攻撃には強硬な姿勢で挑みました。ま

革される」という期待です。アメリカは、江沢民氏やその次に首相を務めた朱鎔基氏を開明的なリーダーとして好意的に捉えていましたから、共産党一党独裁の政治は江沢民時代になればもつとよい統治に変わるだろうと考えていました。実際、官僚機構が整いだし、中国の政治はよい意味での官僚主義が強くなり、朱鎔基時代には様々な改革が行なわれました。ここでアメリカは、二つめとなる「市場化改革」への期待を抱きます。アメリカと同じようなマーケットを中心にした経済になっていくだろうと考えたのです。三つめは「中国の国際貢献」という期待です。アメリカ中心の世界秩序、国際秩序のなかにおいて、G7とちゃんと付き合ってくれるようになると思っていたのです。「将来の中国は、政治面でも経済面でも国際貢献の面でも今日の中国よりもよい中国になっている。」そんな楽観がアメリカの考え方を支配していましたし、そこには慢心があつた。だからアメリカのパートナーとして、中国の意味が再確認されていたのです。

た、南シナ海で中国が周辺国に圧力をかけていましたが、これに対し、アメリカ海軍の艦船を派遣して「航行の自由作戦」を展開しました。ただ、オバマ政権は問題に気付いたけれども、対中戦略の大きな変化はつくるには至らず、そこで時間切れとなりました。

大きく変わったのはトランプ政権以降です。トランプ大統領は中国と貿易交渉をするのですが、戦争のようになり強気で交渉せよ、相手を散々脅かしてもよい結果を得ればよいのだという雰囲気をつくり出しました。すると、アメリカにすでに追いついてきている中国の姿勢を信じられないアメリカの官僚たち、軍人たちは、トランプ氏という存在を利用するようになっていきました。つまり、上で「中国を叩いてもよい」という雰囲気を出したことにより、これ幸いとばかりにアメリカの官僚機構、米軍が中国に対する姿勢を一気に変えていくエネルギーを得たのです。これがトランプ政権期です。

たとえば中国に対して輸出管理を強化しました。アメリカの技術を使った日本製品、ヨーロッパ製品を中国に輸出することも厳しく規制されています。こういうことを法改革

二〇一五年以降に急激に悪化した米中関係

二〇一五年前後に急激な変化が起こり、アメリカはものすごい勢いで中国に対する認識を改め、政策的な対応のあり方を急転換します。その背景は、中国が追いつくことはないという慢心が消え、追いつかれそうな状況になってしまったこと、そして中国に対する期待が失望へと変わってしまったことです。

二〇一五年前後、アメリカの科学論文数で中国が肩を並べ始め、分野によってはアメリカを上まわるようになりました。また、中国が他国へ及ぼす政治的影響力の大きさも認識されるようになってきました。中国はもはや無視できないほどの実力を兼ね備えるようになってきたということがこの頃からはつきりしてきたわけです。アメリカの慢心が消え去った瞬間です。そしてこの頃から、中国に抱いていた三つの期待が失望へと変わりました。政治改革への期待が失せ、市場化改革への期待も消え去ります。

いずれも、なぜ二〇一五年を境としているのでしょうか。二〇一三年習近平政権がスタートした頃、アメリカによって実現し、二〇一八年から始まって今も続いています。または中国からの投資規制です。中国の企業はアメリカの小さな企業も含めてほとんどん投資をし、技術ベースを持ち帰ろうとする。これに規制をかけたのです。技術・モノ・サービスが手に入らなければ中国の成長が遅くなります。それまで自由だった経済活動の蛇口を閉めるような動きではありませんが、トランプ政権はとにかく中国の成長を遅らせること、時間を稼ぐことが重要だと考え、そのため舵を切りました。そして官僚たちがそれを実行していったというわけです。

二〇二〇年一月、貿易交渉が一旦終わり、トランプ大統領も満足していたのですが、その直後に新型コロナウイルスがまん延しました。新型コロナウイルスの対応は明らかに悪かった。トランプ氏はあのとき「コロナ禍のすべては中国の初期対応の悪さにあった。」と言い、明らかにトランプ政権は政治的に中国を利用しました。貿易戦争のときと同様、新型コロナについても中国を叩いてもよいという雰囲気を出したわけです。

そしてトランプ政権最後の一年と

なった二〇二〇年、トランプ大統領は「中国はひどい人権侵害をしている。ひどい政治体制だ。」と主張し、中国は徹底的にトランプ政権から否定されました。その真実はともかく、徹底的に中国を叩くことには合意がありました。そしてそれは、中国政策、中国戦略を変えたいと考えていた官僚たちのチャンスになったのです。

ファーウェイ製品が規制されたというニュースが日本でもよく流れましたが、同じような制裁を受けている中国企業は多数あります。こういう規制、制裁を始めたかった人たちにとって、何よりも重要だったものがホワイトハウスの政治的エネルギーであったのですが、それがトランプ政権であつたわけです。

（バイデン政権の対中戦略）

オバマ氏は民主党、トランプ氏は共和党、今のバイデン氏は民主党です。このように政党は変遷しているにも関わらず、対中政策、対中戦略は今も全く変わっていません。

バイデン政権下では「中国が最も重要な問題の帰結をもたらす戦略的な競争相手」という表現になっています。この表現はロシアのウクライ

は民間技術と軍事技術の垣根は低くなっています。これを中国がしていることが問題だとしているのです。だから、私たちアメリカが常に先をいっていないなければならないということに、バイデン政権は強く動いているわけです。

（米中対立の主戦場は）

科学技術や経済へ）

科学技術や経済において中国との関係を見直そう、過去四十年以上にわたる中国との関係を見直そうという動きが実際に起きているにしても、アメリカには戦争をする準備はありません。アメリカが狙っているのは、アメリカの優位を長期的に保つことだけです。たとえば最近、地球のことがニュースになりました。中国から気球が流れてきて、モンタナ州上空、そしてアメリカ中西部を通って大西洋に出たところで撃墜されました。モンタナには米軍の重要な基地があり、核兵器を配備しています。

なぜ中国が気球を飛ばしたのか良くはわかりませんが、習近平氏が「アメリカを困らせてやろう」としてやったとは思えません。「気球事件

ナ侵略後も変わっていません。去年十月にバイデン政権が発表した国家安全保障戦略でも表現はほとんど同じです。ロシアはウクライナを侵略したけれども、依然、中国がアメリカにとって一番問題であるということにバイデン政権は力点を置いています。それは、中国が潜在力を持っており、中国こそが経済力、技術力、外交力、軍事力においてアメリカを脅かす相手であると考えているからです。バイデン政権も三年目に入りましたが、中国に対する考え方はトランプ政権期とまったく変わっていません。それを支配しているものは「恐怖」であり、「不信」です。少しだけ違いがあるとするれば、本場の戦争だけは避けようとする気持ちが強いです。特に台湾問題はそうです。

いずれにせよ、中国をもうパートナーだとはみなさない、中国はライバルである、中国との長い競争に勝ち抜くことがアメリカの国家目標であると考えています。

アメリカのアプローチを見る場合、特にウクライナ戦争以降は軍の動きばかりをみてしまいがちですが、本来、国際政治は軍事だけで語るものではありません。加えて、国

を機にアメリカは中国を徹底的に恐れるようになった。「米中戦争が近い」と煽っている人たちがいますが、そうではありません。気球を撃墜したときはアメリカの市民も沸き立っていました。その後の様子を見てみると、そのあとも、市民の意識はあまり変化していません。

台湾問題もそうです。先日、台湾の蔡英文総統が中南米の国々を歴訪する途中、ニューヨークとロサンゼルスに立ち寄りしました。ロサンゼルスではアメリカのナンバー3であるマッカーシー下院議長と会いました。「緊張が高まったのか」と思っ

てしまいましたが、実はその事前事後にアメリカと中国が接触し、台湾総統の訪米が摩擦を引き起こさないよう調整しているのです。バイデン政権の考えをよく理解している人物たちも「アメリカはあくまでも中国とのチャンピオン争奪に勝ちたいと思っている。そのため戦略的な問題を軍事的に解決しようなどとは思っていない。」ということをいっています。アメリカの狙いは、今この瞬間に、中国と軍事的な問題、すなわち根幹的な問題を解決することにありません。この部分を、日本

家の成長を支えるのは経済力であり技術力です。

今、アメリカが中国への対応で焦点を置いているのは、軍事的には力には力で抑止を働かせることですが、しかしより重点を置いているのは、中国以上の技術力、科学力をアメリカが有する状況を維持すること、そしてその差をできる限り広げることにあります。

最近、半導体規制についての記事が目立っています。半導体に関して今、アメリカがあそこまで中国憎しとなり、中国に最先端の半導体が渡らないようにしている理由は、半導体はすべての技術の基盤になるからです。実際には半導体だけではなく、クリーンエネルギー技術やバイオ技術など、これから出てくる技術もアメリカは締め始めています。結局、アメリカは何をしたのかといえ

ば、ひとつは「中国より一歩先にいなければならぬ」。もうひとつは、その技術は軍事力にも応用される、だから問題だという「軍民融合」です。実は習近平政権も「民間技術を軍事力に応用する」といっています。アメリカはずっとそれをやり続けてきた国です。アメリカこそ軍民融合の国であり、アメリカのなかで

は徹底的にわかっていません。事実、アメリカの国内世論をみても、戦争などしてほしくないと誰もが思っています。アメリカはウクライナに米軍を派遣していませんが、世論調査でも市民の三七、三八%しか「派兵すべき」と答えていません。「台湾有事の際、米軍を派遣すべきか」という問いに対しても、「派遣すべき」と答えたのは四〇%足らずしかありません。ウクライナと同じです。要するにアメリカ市民は、ウクライナにせよ台湾にせよ、何かが起きたときには難民の受け入れはすべきだ、または軍事的、経済的な支援はすべきだと考えています。しかし、それ以上ではない。

「台湾問題は危険なんでしょうか」とよく問われますが、わたしは「たしかに危ないし、危険であることは否定しない。けれども、今すぐ何かが起こるわけでもない」と答えています。「二〇二七年までに中国は台湾を侵攻するのでしょうか」という問いに対しても、侵攻すると断言できる根拠はありません。侵攻を否定はしませんが、いつ起きるのかということは誰にもわからない。それが台湾有事です。

ただし、押さえておくべき重要な

ポイントがあります。少なくともアメリカは台湾有事が起きないよう事態を管理しようとしているということです。

中国の意図は秘密のベールに包まれていて、誰にもわかりません。少なくとも習近平が命令を下したのは、二〇二七年時点で台湾を解放するために必要な能力を整えておけるということであり、解放せよとはひと言も発していません。「台湾解放の能力を持って」と「台湾を解放せよ」とはまったく違います。

いずれにせよ、台湾問題は今後もわかりやすい焦点になります。しかし、それが軍事衝突に発展しないよう管理することにアメリカは随分気を遣っている。主戦場はそこではないということ。あくまでもアメリカが対中政策の主戦場としているのは科学技術力であり、経済力です。もちろん、主戦場が戦争ではなく経済力であつたらよいというわけではなく、実際、日本の企業もアメリカの大企業も中国投資に二の足を踏み、これから中国政府はどんな規制をかけてくるのかわからないという、甚だ迷惑な状況ですが、それが今の現実です。中国はもはや、パートナーではなくライバルなのですか

をすればよいのかと、みんなが頭を悩ませている状況です。

もうひとつ付け加えれば、世界全体においてアメリカ中心の世界、欧米中心の世界、G7中心の世界というものは、どんどん存在感が失せていくと思います。今のアメリカをみて、かつての勢い、強さはありません。外交に割くエネルギーが極めて少なくなっています。軍事予算は多少増やしてはいても、限界はもうはつきりしています。世界はアメリカの同盟国であり、日本、NATO、EU、オーストラリアの国々と連携をしていけば世界を形づくることのできるとアメリカ人は思っていた。しかし、それはもう世界の現実ではなくなりました。そういう力はずつと減るべきですが、世界の中心は一つではなく、徐々に楕円的なものになりつつある。アメリカだけが世界の中心だった時代は明らかに終わりを迎えており、アメリカがしていることはただの時間稼ぎにすぎなくなっているということ、わたしたちは認めなければならぬのです。

中国の成長は若干の鈍化を始めているのだから、必ずしもアメリカに對する評価を悲観視しなくてもよいという言い方もありますが、アメリカ

ら。戦争の可能性の前に、そもそもとして経済が変わってしまったということ、このことを考えなければなりません。

国際関係のゆくえ

わたしたちが三十年、五十年と築き上げたグローバリ化の時代がずっと続く、または戻ってくるとは思えません。しかし、グローバル化が完全に終わることもない。そして将来は、中国中心のグローバル化になることは避けられないと考えています。ただし、アメリカとしてはその前に同盟国、友好国との経済圏をつくり、できる限りその期間を長くすることに意味があると考えています。

米ソ冷戦の時代も、経済圏に関しては同じような考え方をしていました。中国とは最後の段階で和解し、技術移転までしましたが、基本的には自国中心、または自国と同盟国、パートナー国中心の経済圏を重視していました。貿易量も圧倒的でした。その時代と同じような方向に向かっているのかざるをえないような感じがします。

今のアメリカの動き、または米中

カ自身、かつてのように世界と積極的に関わり続けようとは思っていないのです。国内状況がそれを許してはくれないからです。

来年、大統領選挙があります。バイデン氏は出馬を表明し、民主党からはバイデン続投となるでしょう。対する共和党は、いま圧倒的に人気があるのはトランプ氏であり、次点はフロリダ州知事のロス・デサンテス氏です。いずれも、昔のようにアメリカは世界に関わるべきだとは思っていません。アメリカ・ファーストを唱えてはいても、内実はアメリカの国内問題が重要であり、それ以上でもそれ以下でもない。

さいごに

米中対立の由来、所以、来歴を知ることでも大事ですし、いま何が起きているのかを知ることでも大事です。しかし、それが世界に大きな変化をもたらしているという今を知らなければならぬのです。グローバル化も相当変わりました。それだけではなく、世界のなかでの仲間づくりといえますか、国の動き方もアメリカ中心から徐々に楕円の体をなしているということも知らなければ

対立の動きをみていえることは、世界が窮屈なものになってしまったということ、これは八〇年代、九〇年代は「世界は広がる」と思っていました。そのベクトルはまだまだ残っています。小さくなる方向のベクトルの勢が増している。世界は窮屈になり始めているのだと思います。

日本では「経済安全保障」という言い方をされていますが、中国に対するインテリジェンス(情報収集)、または中国が他国を経済力で脅したとき、どうやって立ち向かうのかということがアメリカの中心的な話題になっていきますし、中国に対する技術の管理、お金の管理も厳しくなっています。

わたしが心配をしているのは差別です。アメリカではトランプ政権末期から中国系だけではなく、アジア系に対する差別が強くなっています。それも企業で働いている人、特に科学技術部門にいれば、出自が中国系であれば差別的な扱いを受ける可能性が高まっている。大きな懸念なのですが、同時に技術流出の防止のための措置はやらざるを得ないとも思われていて、どうやって線引き

ばなりません。昔は「世界はひとつになる」と思っていました。中国語ではグローバル化のことを「全球化」といいます。読んで字のごとく、みんなが「球になる」と思っていました。しかしその球がどんどんひしゃげています。そういうふうを受け取るほうがよいかと思えます。

(令和五年四月二十八日)

午さん会講演抄録文責在記者

●●●●● 会員数の状況と
●●●●● 会員数維持増員のお願い

会員数は、六月末現在、一、四三一名となっております。

会員の皆様から頂戴いたします会費が会
員相互の交流と親睦を第一の目的とする当
倶楽部の事業を支える一番大きな柱となっ
ており、財政基盤の安定化並びに倶楽部の
活性化のため、会員増強に努めているところ
です。

当月下旬には順次、住所等のご変更につ
きましてのご確認の書類をお送りさせて頂
いておりますのでご協力をお願いいたしま
す。また、法人会員の皆様には指定会員の
変更につきまして、ご確認の書類をお送り
させていただきます。厳しい経済環境ではあ
りますが、指定会員の變更に際しましては
是非とも現会員数を維持していただき、増
員につきましても何卒ご検討いただきますよ
う重ねてお願いいたします。

●●●●● 当倶楽部会館内における
●●●●● 節電協力へのお願

地球温暖化防止及び省エネに寄与するた
めクールビズや節電に取り組んでいます。皆様
のご理解、ご協力を是非お願いいたします。

◇クールビズ実施
令和五年五月一日(月)から十月末日まで

◇大食堂・厨房、各事務所
照明、OA機器、空調等の節電

◇エレベーター
本館エレベーターのうち一基を原則終日運
転休止とさせていただきます。

◇貸室
・使用開始一時間もしくは三〇分前の空調・照明ON
・利用終了時の空調・照明コンセントOFFの徹底
・不使用室の空調・照明OFF徹底

◇廊下・共用部分の照明
・照度を考慮した上での間引きを実施
・閉館以降の館内消灯の徹底

●●●●● 新規会員のご紹介のお願い

当倶楽部の発展のためには、会員企業の
皆様そして個人会員の皆様の新入会員の
ご紹介が何よりも大切です。

「明るく、親しみのある倶楽部」として会
員皆様に倶楽部ライフを楽しんでいただき、
大切な交流の場として活用いただけるよう
事務局一同頑張つてまいりますので、何卒お
力添えのほどよろしくお願い申し上げます。

ご入会希望
の方には、事
務局がいつで
もお伺いしご
説明いたしま
すので、ご紹
介方よろしく
お願いいたし
ます。

(会費・入会金)

区分	会員区分	会費
入会金	指定会員	1社(団体) 7万円 新規入会 3万円 会員歴あり 2~5年未満 1万円 5~10年未満 5千円 10年以上 無料
	個人会員	
	指定会員	一律 5,000円
月額会費 会員一名	個人会員	毎月払い 4,300円 半年払い 4,050円 年一括払い 3,800円

●●●●● ゴルフ教室のご案内

インストラクターは、NGFプロインストラク
ターの松井由紀さんです。初心者の方から、長
年ゴルフをされている方までその人に合わせた
アドバイスを心がけています。

■日時 毎週水曜日十二時~十六時(二十分)
■料金(一回あたり)
倶楽部会員・ゴルフ部員 五〇〇円
倶楽部会員・ゴルフ部員の同伴者 一、〇〇〇円

※ただし、ボール使用料(一箱二十球)・インド
ア使用料等は別途お支払い下さい。
■問い合わせ総務グループまで
電話 〇六・六三・四五一・六三・五五

インドア練習場利用料金表

種別	料金	
倶楽部会員	インドア使用料	なし
	ボール使用料 (20球/箱)	100円/箱
	貸クラブ使用料	100円/回
ゴルフ部員	インドア使用料	なし
	ボール使用料 (20球/箱)	100円/箱
	貸クラブ使用料	なし
同伴者	インドア使用料	400円/回
	ボール使用料 (20球/箱)	200円/箱
	貸クラブ使用料	200円/回

●●●●● 会議、セミナー、ミニコンサート等に
●●●●● 大ホール・会議室のご利用を!!

当倶楽部は、交通の便も良く、低料金で十
人程度からご利用が可能な大小二十三室の
会議室とお稽古事にもお使い頂ける和室三
室、そして椅子席三六〇席の大ホールまでござ
います。

一〇〇年以上の歴史ある社交倶楽部のく
つろぎに満ち、ゆつたりとした空間を、大切な
会議やセミナー、講演会、展示会、ご商談、打
合せの会場としては是非ご利用ください。また
同窓会・OB会等、旧友との再会の場としても
最適です。五階大ホールにはグランドピアノを
備付けており、ミニコンサート会場として、そし
て、大スクリーンでシアター感覚のご利用とイベ
ントにも多岐にわたりにご利用頂けます。

また、インターネットでのネット会議・セミ
ナーの環境も整えております。



(五階ホールのグランドピアノ)

専門スタッフが、会場設営、また機材のご利
用説明を致して
おりますので、
安心してご利用
ください。

CLUB GRAF

くらぶ・ぐらふ

◎午さん会(3月3日)

『家康の統治理念
~徳川の治政260年余の秘密~』

国際日本文化研究センター
名誉教授 笠谷 和比古 氏



◎午さん会(3月10日)

『大相撲番付鳴動
~令和5年大阪場所の見所~』

産経新聞社 東京本部
運動部 宝田 将志 氏



●●●●●
電社会講演会開催

「道」福島区大開を終生忘れず愛した
松下幸之助で町おこし」
電社会(代表幹事 猪谷勇三氏)は、六月一日
木曜日会員十九名参加のもと、松下電器産業
株式会社(現パナソニック)OBの末廣 訂氏を講
師にお招きし当番幹事 松
本好治氏とともに講演
いただきました。
末廣氏は松下電器産業
株式会社を定年退職され
た後、数多ある再就職の
誘いをお断わりになり、地
元福島区のためにご尽力
されました。
福島区大開は、経営の神様「松下幸之助」が
終生本籍を置かれ愛した創業の地です。この地
に記念碑を作られるまでの足跡を述べられまし
た。
また、コロナ禍で、苦勞されている町おこしの
お話では、昨今加入が消極的になっている自治会
や町内会に携わる会員の方より、質問があり
ました。
松下OBの方、パナソ
ニック松愛会の方、神奈
川県茅ヶ崎にある松下
政経塾の方が毎年この
記念碑をご覧に来られ
るとの事です。
また来年十一月には
記念碑建立二〇周年と
なり式典が予定されて
います。
皆様もこの機会に訪れてはいかがでしょうか？
講演終了後は食堂で夕食会が開かれ、和やか
な雰囲気でご会合となりました。



講師の末廣氏、松本氏



記念碑

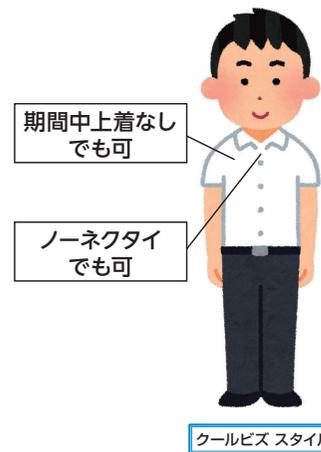
●●●●●
電寿会 会員募集

電寿会(代表幹事 吉川 隆俊氏)では、
随時新会員を募集しています。(正式入会前
の体験参加大歓迎)

- 例会
毎月 原則第一水曜日例会
(十二時から二時頃まで)
- 例会では、楽しく食事をして、今話題の
事柄など、話の花を咲かせております。
- 年一回見学会(電社会合同)
(春―五月頃予定、秋―十月頃予定)
- 会 費 一ヶ月一、〇〇〇円
(上期・下期の半年毎)
- 見学会、新年会等は別途会費あり
お申込み・お問合わせは、事務局(更谷倉)まで。

●●●●●
倶楽部館内の夏期服装について
(五月一日～十月末日)

期間中は**上着なし、ノーネクタイ、開襟シャツ**の略装によりご来館いただいても差し支えないことといたします。但し、下記の服装はご遠慮いただきます。



期間中上着なしでも可
ノーネクタイでも可

NG

スニーカー	ジーンズ	短パン	ジャージ
迷彩パンツ	サンダル	下駄	Tシャツ
襟なしシャツ	作業服	スリッパ	

●●●●●
電社会 会員募集

電社会(代表幹事 猪谷勇三氏)では、新
会員を募集しています。電社会に加入されて
倶楽部ライフをより満喫されてはいかがでしょ
うか。

- 例会
原則毎月第一木曜に例会を実施。
- 電社会講演会(一部倶楽部午さん会と合同)
春、秋の見学会(四、十月の第一木曜日)
サマーフェスティバル
忘年懇親会
- 会 費 一ヶ月二、〇〇〇円
(上期・下期の半年毎)
- お申込み・お問合わせは、事務局(藤川)まで。



4月6日 春の見学会にて

●●●●●
食堂よりのお知らせ

いつもお世話になり、有難うございます。
七月一日より一階喫茶にて、お蕎麦を、用
意させて頂きます。
暑い時期に喉ごしのよいメニューとしてい
がでしょうか。
期間限定ですが、是非皆様のご利用をお
待ちしております。



ざる蕎麦 六〇〇円(税込)



冷製山かけ蕎麦(牛肉入り) 八〇〇円(税込)

●●●●●
青年会 会員募集

青年会(代表幹事 石田 貴志氏)では、随
時新会員を募集しています。(正式入会前
の体験参加大歓迎)

- 例会
毎月 原則第一月曜日
(十八時から二十時頃)
- 例会では、旬なものの食事会やゴルフなど
で会員同士の親睦を図っております。
- 例会は十名前後で硬軟とりまぜ色々な
話題を情報交換しております。
- 会 費 一ヶ月二、〇〇〇円
(上期・下期の半年毎)
- 例会、見学会等は別途会費あり
お申込み・お問合わせは、事務局(三宅)まで。



見学会にて

◎**絵画部(水彩画)教室**
六月度(七日水曜日)の題材は、「静物・バラ」でした。

次回は七月五日(水)「人物・裸婦」です。

◎**囲碁部** 例会(六月十日)

成績

三勝 田中 泰君
二勝 廣川 強士君
四段 松原 健吉君
四段 鍵吉君
(参加者 六名)
(次回例会は七月八日(土))

◎**将棋部** 例会(五月二十七日)

成績

三勝 井上 清志君
二勝 井上 紘君
六段 井上 紘君
(参加者 六名)
(次回例会は七月二十一日(土)指導なし)

◎**ゴルフ部** 第五六三回 例会

(六月十四日) くもり時々雨 於大阪G.C

成績

優勝 宮田 雅之君
二位 石田 大君
三位 河内 正志君

・優勝コメント

この度は、名誉ある中央電気倶楽部のゴルフ競技に優勝することが出来大変嬉しい限りです。大阪の名門、大阪ゴルフ倶楽部の景観とコースの素晴らしさにも感動しました。何よりご同伴頂き楽しくプレーさせて頂きました、山本貴士様、鈴木克彦様にはお礼申し上げます。今後ゴルフ部発展の為、微力ではありますが精進してまいります。
(次回例会は、七月六日(木))
第五六四回例会 泉南C.C

◎**俳句部**

第八百五十回 いなづま句会

俳誌「かつらぎ」主宰 森田純一郎先生 指導
令和五年五月二十日

兼題 「城北公園 菖蒲園 吟行」

当季雑詠五句

選者吟

二分咲を詫ぶる園丁菖蒲園
濁世へと菖蒲の園を今辞しぬ
薫風の淀川堤去りがたし
陋巷を彩る未央柳かな
花菖蒲見ずに身の上話かな

いなづま句抄

○燕舞ふ釣人多き湾処かな 富山 勝幸
○春光や草に一本づつの影 留岡 寛
○名付けたる人を思ふや菖蒲園 野尻 弘輔
○菖蒲苗大小ならぶ園出口 東代 舞
○ただ一花泰山木のいよよ白 広田 祝世
○揚雲雀湾処には見廻りの舟 出店智恵呼
○二の腕をくすくする風や五月来る 奥村 恵子
○ちらほらと満開遠し花菖蒲 友岡 淑子
○四阿の花菖蒲咲く方に座す 前野美枝子
鳥鷺に似て紫白競へる菖蒲園 難波 正行
(○印選者選)

前回優勝コメント
第五六二回 例会
(五月十日) 晴れ 於琵琶湖C.C

優勝

辻田 知史 君

・優勝コメント
五月十日のコンペにて二回目の優勝をさせていただきました大変喜んでおります。誠にありがとうございます。昨年に続き今回も私のホーコースの開催で、ディキヤップと地の利を生かしたことが一因です。またもう一つの要因は組合せですね。

当日のメンバー中野さんと山本さんがめっちゃお元気で楽しく面白方々でした。いつも終始笑わせて頂きたい、へんり、クワスしたプレーができました。いisゴアを出すことができて最高の一日でした。
中央電気倶楽部にお誘いいただきました松山三雄様には昨年に続きまして再度の感謝を申し上げます。皆さま、今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

令和四年チャンピオンシップ

優勝

辻田 知史 君

・優勝コメント
ゴルフ部例会のコンペは、年度のチャンピオンシップも兼ねての開催ということで五月の例会と重ねてダブルの優勝をさせていただくこととなりました。まさかの優勝が、まさかまさかのダブル優勝で終始笑顔が途絶えませんでした。

一時期はゴルフに行ったら一〇〇点を切るか切らないかみたいなプレーしかできなかったのですが、最近はいちよつとそれが今回を思い出してなんと上手くできています。それが今回のコンペの開催日にもたまたま發揮できてラッキーです。

でも何よりもいい方々ばかりで明るく楽しいのでそれが最高ですね。来年もチャンピオンシップに開催日が琵琶湖C.Cになればいいなあ。なげに連続優勝を夢見ている私がいまは。
皆さま、今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

◎**麻雀部** 第二六一回 大会(五月二十日)

成績

優勝 橋爪 信之君
二位 藤澤 幹雄君
三位 井戸 高志君
四位 岡田 和夫君
五位 野村 和夫君
(参加者 二十名)

(注)

濁世(じよくせ)・・・仏教で、濁り汚れた世のこと。のこを言う。

薫風(くんぷう)・・・青葉の香りを吹きおくる

初夏の風のこと(季語)

陋巷(ろうこう)・・・狭くて汚いちまたのこと。

未央柳(びおうやなぎ)・・・白居易の漢詩から、玄宗皇帝が未央宮殿の柳を楊貴妃の肩

に喻えた故事になぞらえている(季語)

湾処(わんど)・・・河川改修などによって本流と

一部つながった池のことをいう。「城北ワンド」が有名です。

泰山木(たいさんぼく)・・・モクレン科の高木

で、初夏に香り高い大輪の花を咲かせる

(季語)

揚雲雀(あげひばり)・・・季語「雲雀」の子季語

で、繁殖期に麦畑などに巣を作り、雄は空

高く舞い、甲高く囀って縄張りを主張する

(季語)

四阿(あずまや)・・・庭園などの休息所のこと

で、壁がなく、四方の柱だけの小屋。

鳥鷺(うろ)・・・カラスとサギ、すなわち黒と白

のことで囲碁のことを指す。

・優勝コメント

当日は二回戦終了時点では首位とは大差が付いており、三回戦は二位を目指して臨みました。しかし、三回戦に於いてトップの方より満貫を上がる事が出来、逆転で四年振りに優勝する事が出来ました。大変幸運な一日でありました。今後共宜しくお願ひします。
(次回大会は八月十九日(土))

◎**撞球部** 例会(六月三日)

成績

優勝 富山 勝幸君
二位 磯田 邦夫君
三位 磯田 邦夫君
四位 磯田 邦夫君
五位 磯田 邦夫君
(参加者 十五名)

・優勝コメント

今回二年半ぶりに「月例会」で優勝し、また、その間初孫を授かり喜びもひとしおです。

この「月例会」の前日の練習で右クッションにある的玉を撞くのは正確に引くことができたのですが、左クッションにある的玉は、どうしても正確に引くことができません。月例会「当日は、そのことを念頭において臨みました。

また、日頃から上級者の方々のご指導、とくに、的玉を思ったところに戻して、この重要性を学び、そのことを意識して撞いたつもりですが、今後、その精度を上げるべく練習に励みたいと考えています。対戦していただいた皆さん、ありがとうございました。

(次回例会は七月一日(土))

◎**第二十九回 清交社中央電気倶楽部対抗四ツ球競技会**

(六月十日) 於 中央電気倶楽部

成績

清交社 七勝六敗二分
中央電気倶楽部 五勝八敗二分
村上 幸夫君・大竹 一夫君
村山 勝幸君・雑賀 幹人君
富山 勝幸君・雑賀 幹人君
奥谷安規子さん

他倶楽部案内

●●●●● 清交社の午さん講演会の案内

会場：ANAクラウンプラザホテル大阪
四階平安の間他

時間：十一時三十分～十三時三十分

七月四日(火)

講題『バスボートの歴史とノーマライゼーション社会を目指して』

一般社団法人愛ボツチャ協会

代表理事 岡田 良広 氏

七月十一日(火)

講題『川柳は心のことば』

番傘川柳本社代表 田中 新一 氏

七月十八日(火)

講題『未定』

日本銀行大阪支店 中島 健至 氏

支店長

七月二十五日(火)

講題『未定』

宮前歯科クリニック理事長 宮前 守寛 氏

※状況により中止になる場合があります。

◆出席ご希望の方は、当倶楽部事務局に二日前までにお申し込み下さい。

◆会費/三〇〇〇円(昼食代消費税込後日精算)

前日の午後五時以降は、キャンセル料が発生します。

☆クルーズ(十月末まで)